



平成30年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年4月13日

上場会社名 E・Jホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2153 URL http://www.ej-hds.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小谷 裕司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 浜野 正則 TEL 086(252)7520
 四半期報告書提出予定日 平成30年4月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年5月期第3四半期の連結業績（平成29年6月1日～平成30年2月28日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年5月期第3四半期	10,114	48.3	△1,578	—	△1,523	—	△1,174	—
29年5月期第3四半期	6,817	△2.2	△2,458	—	△2,414	—	△1,933	—

(注) 包括利益 30年5月期第3四半期 △1,049百万円 (—%) 29年5月期第3四半期 △1,926百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年5月期第3四半期	△204.55	—
29年5月期第3四半期	△336.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年5月期第3四半期	25,211	13,573	53.8
29年5月期	23,457	14,772	63.0

(参考) 自己資本 30年5月期第3四半期 13,573百万円 29年5月期 14,772百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年5月期	—	0.00	—	26.00	26.00
30年5月期	—	0.00	—		
30年5月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

30年5月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 26円00銭 記念配当 4円00銭

3. 平成30年5月期の連結業績予想（平成29年6月1日～平成30年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	8.8	1,400	9.9	1,450	15.1	1,000	—	174.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年5月期3Q	7,261,060株	29年5月期	7,261,060株
② 期末自己株式数	30年5月期3Q	1,521,440株	29年5月期	1,521,200株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年5月期3Q	5,739,740株	29年5月期3Q	5,739,960株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(四半期連結包括利益計算書)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. 補足情報	8
生産、受注及び販売の状況	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国が金融政策正常化に向かうなか、米国及び欧州各国政権の不安定化、東アジアでの地政学的なリスクの拡大による政情不安の継続など、不透明要因が残る状況で推移いたしました。

わが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、安定政権への安心感と、各種政策の継続期待から緩やかな景気回復が期待されておりましたが、国有財産売却問題などによる現政権の支持率低下など、国内においても今後の国政運営に関して不透明な状況で推移しております。

また、近年の異常気象による豪雨災害や頻発する地震への対策など、防災・減災対策等の整備のあり方等を含め、国土強靱化地域計画策定に基づく整備の進展が急がれておりますが、第1四半期連結会計期間において発生した九州地方や東北地方等での豪雨による被害等の影響は残っており、未だ復旧への対応は継続しております。

建設コンサルタント業界の経営環境は、迫りくる巨大地震や自然災害に対する防災・減災対策、老朽化インフラ施設の調査・点検・長寿命化対策検討、地域活性化施策の推進など、インフラ事業の需要の「質」の変化のみならず、IoTやAI対応といった新たな成長分野の誕生が予想されています。さらには、生産性の向上を前提とした「働き方改革」、ワーク・ライフ・バランスの実現、これらによる優秀な人材の確保・育成並びに技術力・マーケティング力などによる企業間競争の激化も想定され、経営環境は不透明さを残した状況が継続しております。

このような状況の中、当連結グループは、平成29年7月12日に公表しました「E・Jグループ第4次中期経営計画」の初年度にあたり、経営ビジョン「わが国第一級のインフラ・ソリューション・コンサルタントグループ」の実現を目指し、「盤石な経営基盤」の構築を図るべく、「主力事業の深化とブランド化」、「新事業領域の創出」、「グローバル展開の推進」、「環境の変化に即応する経営基盤整備の推進」という4つの基本方針のもと、連結子会社の連携を強化し、弱点地域や弱点分野の受注シェアの拡大、グループ内人材の育成並びに人材の新規採用にも積極的に取り組み、さらなる飛躍に向けて邁進してまいりました。

さらに、当連結グループは、「インフラ・ソリューション・コンサルタントグループ」としての責務を果たすため、上記の他に、地方が抱える課題に対処すべく、農林業や観光事業を考慮した新たな地域再生・活性化事業にも積極的に対応しているところであります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、受注高185億16百万円（前年同期比95.4%）、売上高101億14百万円（同 148.3%）となりました。一方、損益面においては、営業損失15億78百万円（前年同期は営業損失24億58百万円）、経常損失15億23百万円（同 経常損失24億14百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失11億74百万円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失19億33百万円）となりました。これは、受注の大半が官公需という特性により、通常の営業の形態として、納期が年度末に集中するため売上高が第4四半期連結会計期間に偏重する傾向にあること、固定費や販売費及び一般管理費については月々ほぼ均等に発生することに起因しています。

なお、当連結グループのセグメントは、総合建設コンサルタント事業のみの単一セグメントでありますので、セグメント別の業績は記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ17億54百万円増加し、252億11百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べ2億69百万円減少し、159億30百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が4億51百万円、たな卸資産が49億3百万円、繰延税金資産が5億33百万円、その他に含まれている未収入金が4億53百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が67億99百万円減少したことによるものであります。なお、当連結グループの業務の特性として、業務の完成及び顧客からの入金第4四半期連結会計期間に偏重する傾向にあります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ20億24百万円増加し、92億80百万円となりました。これは主に、投資その他の資産のその他に訴訟に係る損害賠償の仮払金14億98百万円を計上したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べ29億53百万円増加し、116億38百万円となりました。これは主に、流動負債のその他に含まれている未払費用が9億3百万円減少した一方で、短期借入金が38億50百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ11億99百万円減少し、135億73百万円となりました。これは主に、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損益が11億74百万円の損失計上となったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結グループは、総合建設コンサルタント事業を主な事業内容としており、主要顧客である中央省庁及び地方自治体への納期が年度末に集中することから、売上高が第4四半期連結会計期間に偏重する季節的変動要因があります。

通期の業績予想については、当第3四半期連結累計期間の営業業績が通期の予想に対しほぼ順調に推移しており、当連結グループを取り巻く景況感も概ね想定の範囲内であることから、現時点では平成29年7月12日に公表した業績予想数値からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,461	4,661
受取手形及び売掛金	1,789	2,241
たな卸資産	2,194	7,097
繰延税金資産	270	804
その他	488	1,130
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	16,200	15,930
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,058	1,306
土地	2,273	2,264
その他(純額)	288	524
有形固定資産合計	3,621	4,095
無形固定資産		
のれん	98	46
その他	180	170
無形固定資産合計	279	217
投資その他の資産		
投資有価証券	1,711	1,883
固定化営業債権	5	7
投資不動産(純額)	348	343
繰延税金資産	353	281
退職給付に係る資産	29	43
その他	1,000	2,505
貸倒引当金	△91	△97
投資その他の資産合計	3,356	4,968
固定資産合計	7,256	9,280
資産合計	23,457	25,211

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年2月28日)
負債の部		
流動負債		
業務未払金	689	744
短期借入金	50	3,900
1年内返済予定の長期借入金	234	234
未払法人税等	267	51
未成業務受入金	2,195	2,333
賞与引当金	—	484
受注損失引当金	2	25
その他	1,767	654
流動負債合計	5,207	8,430
固定負債		
長期借入金	759	583
繰延税金負債	36	41
退職給付に係る負債	1,062	959
長期未払金	77	77
訴訟損失引当金	1,490	1,498
債務保証損失引当金	28	26
その他	22	20
固定負債合計	3,476	3,208
負債合計	8,684	11,638
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	5,255	5,255
利益剰余金	11,115	9,792
自己株式	△3,964	△3,965
株主資本合計	14,406	13,082
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	248	379
退職給付に係る調整累計額	118	111
その他の包括利益累計額合計	366	490
純資産合計	14,772	13,573
負債純資産合計	23,457	25,211

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)
売上高	6,817	10,114
売上原価	5,405	7,464
売上総利益	1,412	2,649
販売費及び一般管理費	3,870	4,227
営業損失(△)	△2,458	△1,578
営業外収益		
受取利息	11	10
受取配当金	20	21
不動産賃貸料	20	19
匿名組合投資利益	18	20
その他	18	21
営業外収益合計	89	93
営業外費用		
支払利息	6	7
不動産賃貸費用	9	10
支払保証料	6	5
その他	22	15
営業外費用合計	45	39
経常損失(△)	△2,414	△1,523
特別損失		
減損損失	—	10
訴訟損失引当金繰入額	—	8
事務所移転費用	122	23
特別損失合計	122	43
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,536	△1,567
法人税、住民税及び事業税	104	105
法人税等調整額	△708	△498
法人税等合計	△603	△393
四半期純損失(△)	△1,932	△1,174
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,933	△1,174

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年6月1日 至 平成30年2月28日)
四半期純損失(△)	△1,932	△1,174
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	130
退職給付に係る調整額	△4	△6
その他の包括利益合計	5	124
四半期包括利益	△1,926	△1,049
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,927	△1,049
非支配株主に係る四半期包括利益	0	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

(単位：百万円)

業務別	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)	(参考)前連結会計年度 (自平成28年6月1日 至平成29年5月31日)
建設コンサルタント業務	14,362	16,609	20,920
調査業務	2,318	2,700	3,104
合計	16,681	19,309	24,024

(注) 上記の金額は販売価格に生産進捗率を乗じて算出しており、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

(単位：百万円)

業務別	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)		(参考)前連結会計年度 (自平成28年6月1日 至平成29年5月31日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
建設コンサルタント業務	17,054	20,939	15,746	19,579	23,181	12,775
調査業務	2,351	2,459	2,769	3,086	3,248	1,488
合計	19,405	23,399	18,516	22,665	26,430	14,263

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

(単位：百万円)

業務別	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)	(参考)前連結会計年度 (自平成28年6月1日 至平成29年5月31日)
建設コンサルタント業務	5,732	8,941	20,024
調査業務	1,085	1,172	2,953
合計	6,817	10,114	22,978

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。